

強化プラスチック誌 投稿規定

2021.2.1 改正

- 1. 目的** 強化プラスチック誌への投稿について規定する。
- 2. 投稿資格** 原則として、(一社)強化プラスチック協会会員、もしくは公的機関とする。
- 3. 著作権** 強化プラスチック誌に掲載された記事の著作権は、(一社)強化プラスチック協会に属する。記事を複製あるいは転載する場合には、協会の許諾を得ること。ただし、著者あるいは共著者は記事の一部を複製、翻訳などの形で利用する権利を有する。
- 4. 審査** 論文については、査読審査を行う。審査については、本協会の定める審査規定に従う。
- 5. 原稿のカテゴリー** 執筆要項に定める。
- 6. 原稿の掲載** 掲載の可否については、情報・編集委員会が責任を持つ。
- 7. 原稿の返却** 原稿は原則として返却しない。
- 8. 掲載料** 無料とする。ただし、カラー原稿掲載の場合は有料。
- 9. 原稿送付先**
〒105-0004 東京都港区西新橋1-18-17
明産西新橋ビル6F
ニッセイエプロ株式会社
『強化プラスチック』誌事務局代行担当
TEL：03 (5157) 1274, FAX：03 (5157) 1275
E-mail：frp_daikou@eblo.co.jp

強化プラスチック誌 執筆要項

2021.2.1 改正

1. 原稿のカテゴリー

以下のいずれかとする

(1) 主に投稿に依存しているもの

- 論文** 学術・技術・開発関係の原著論文で、他の学会誌・学術誌に原著論文として掲載されたことのないもの。理論、実験等に明確な誤りがなく、工学または工業上の貢献性があり、かつ独創的で価値ある結論あるいは事実、知見を含むもの。刷り上がり4～6頁程度。
- 技術資料** 技術的に有用なデータなど。既発表のもののみも可能。刷り上がり4～6頁程度。
- 報告** 新しい技術や動向、知り得た新しい情報などを報告したもの。刷り上がり2～3頁程度。
- 調査** 海外調査、あるいはテーマを絞った調査など。刷り上がり3～6頁程度。
- 研究紹介** 公的機関もしくは企業の研究開発などを紹介するもの。刷り上がり4～6頁程度。
- 製品紹介** 企業の新製品などを紹介するもの。刷り上がり2～3頁程度。
- 企業拝見** 主に成形加工メーカーの紹介。刷り上がり1頁。
- ホームページ紹介** FRPに関するホームページの紹介。刷り上がり1頁。
- ISO9000/14000シリーズ取得企業紹介**
取得された企業の取得情報の紹介。刷り上がり1頁。

(2) 企画・執筆依頼のもの、および事務局作成分

この場合、上記(1)のカテゴリーに加え、連載講座、解説(4～6頁程度)、特集(4～6頁程度)、寄稿、FRPネットニュース、会員・読者の欄、まちかどF+R+P、会議より、委員会レポート、部会だより、セミナー・研究会だより、JRPSニュース、JRPSカレンダー、協会行事、など。

2. 投稿原稿表紙

別紙「強化プラスチック誌投稿原稿表紙」の所定の欄に必要事項を記入する。

- 題名** 原稿の内容を的確に表し、かつ簡潔な題名とする。
- 要旨** 論文と技術資料の場合は和文要旨を添付する。200～300文字程度とし、目的、方法、結果などを簡潔に記し、主要な成果がわかるようにする。
- キーワード** 論文、技術資料の場合は3～5語のキーワードを和文で記入する。

3. 原稿の執筆

- ・原稿執筆には原則としてワープロソフトを使用する。
- ・24字×43行の2段組、あるいは48字×43行の1段組(刷上がり1頁に相当する)とする。
- ・9ポイント以上12ポイント以下のフォントを用いる。
- ・本文は9ポイントの明朝体が基本とし、添付のタイトルおよび本文の標準書式を使用する。

- ・原稿用紙右上または下にページを（ページ/全ページ数）のように記入する。
- ・図表の挿入位置を原稿右欄外に指定する。本文中に挿入してもよい。

4. 原稿の提出

原稿は、投稿規定「9. 原稿送付先」へ電子メールに添付して提出する。

投稿論文の場合は、情報・編集委員会で受け付けた日を受付年月日とする。

5. 本文の体裁

5. 1 本文は和文で執筆することとし、文章は原則として常用漢字、現代仮名遣いにより口語体で簡潔明確に書く。手書き原稿の場合にはアルファベット、ギリシャ文字等はすべて活字体で正確に記入する。

5. 2 学術用語は原則として文部省編の「学術用語集」に従う。

5. 3 原稿における本文の区分けは、下記の例のようになるべくポイント・システムを用いて大見出し、中見出し、小見出し等を明瞭にする。

[例1] 1	[例2] 1
1.1	1.1
1.1.1	(1)
(1)	(a)
(a)	

なお、本文中に章等を引用する場合は1章、1.1節、1.1.1項等と表記する。

5. 4 句読点、カッコ、ハイフン等は1コマ（全角文字）に書き、新しい行の初めは1コマあける。

5. 5 手書き原稿の場合には、ローマン体（普通の立体、例えば、Materials Science）の文字は何もつけない。ギリシャ文字、ドイツ文字は赤でまるく囲む。イタリック、ゴシック、大文字、小文字などの指定は赤鉛筆で当該位置に明瞭に指示すること。

5. 6 数字の位取りの表示は形式Aを用い、形式Bは用いない。

(形式A)	(形式B)
0.524	.524
3.467×10^{-4}	$3.467 \cdot 10^{-4}$

5. 7 単位はSI単位を用い、その表示方法はJIS Z 8203「国際体系（SI）及びその使い方」に従う。

5. 8 数字記号、量記号も次に記すJISの表示方法に従う。

・数学記号：JIS Z 8201「数字記号」

・量記号：JIS Z 8202「量記号、単位記号及び化学記号」

5. 9 数式の表示にあたっては以下の点に注意する。

- (1) 数式はできる限り数式作成ソフトを使用すること。それ以外の場合は、式に含まれる「上付き」あるいは「下付き」などの文字や数字がはっきりとわかるようにする。

- (2) 数式は式として独立したものは $\frac{a}{b}$ 、 $\frac{a+b}{c+d}$ のように、文中に出てくるものは a/b 、 $(a+b)/(c+d)$ のよう

に書く。

- (3) 量記号で誤解されやすい文字、例えばC, K, O, P, S, U, V, W, X, Zなどの小文字と大文字との区別、あるいはO（オー）と0（ゼロ）、 r と γ （ガンマ）、 k と κ （カッパー）、 x と χ （カイ）、 w と ω （オメガ）など、とくに間違いやすい文字はできるだけはっきり区別し、指定する。

- (4) 式番号（1）、（2）、……のように通し番号とし、（1・1）、（3・5）のような使い方はしない。また、式番号を文中で使用するとき、式（1）、式（2）などとする。

5. 10 脚注は*1, *2等の記号を用い、ワープロでは各節の末に、手書きの場合は原稿用紙ごとに整理し、その用紙の最下段に本文との間に線をを入れて記載する。最後にまとめたり、欄外に書いたりしない。

5. 11 文献の記載方法については、引用箇所の肩に^{1), 3), 5)~8)}などを付け、文献を本文末にまとめて書く。著者名は連名者を3名までは書き、3名を超える場合には、「他」などと略す。

雑誌の場合の引用方法：文献番号）著者名、雑誌名、巻一、開始ページ（西暦発行年）。ただし、通年ページ数の入っている雑誌の号数は記入不要。

1) 強化太郎, 強化プラスチック, 43-4, 200 (1997)

2) A. J. Kinloch, Y. Wang and J. G. Williams, Compos. Sci. Technol. 47, 225 (1993)

単行本の場合の引用方法：文献番号）著者名, “書名”, ページまたは章（西暦発行年）発行所

1) 島村昭治, “複合材料のはなし”, p.200 (1982) 産業図書

6. 図および表の体裁

6. 1 図・表中の文字は和文を原則とする。

6. 2 図および表には必ず説明文（キャプション）をつける。なお、1つの図・表の中に（a）、（b）のように複数の図表がある場合は全体の説明文をつける。説明文は和文を原則とする。

6. 3 図および表の番号は図1、表1のように表す。いずれの場合もそれぞれ通し番号とする。なお、写真は図として取り扱い、写真1などは用いない。

6. 4 図、写真、表は鮮明でなければならない。不鮮明な場合には再提出を求めることがある。

本誌は原則モノクロ印刷のため、元図がカラーで作成されている場合には十分考慮すること。

ただし、執筆者が特別料金負担によるカラー原稿の掲載を希望する場合には、対応が可能。料金については別途相談による。

7. 他の著作物からの引用

他の著作物から引用する場合、必要な場合は著者の責任において原著者または発行者の許可を取得する。